

6月になり、今期で帰国してしまう日本人学生との別れを寂しく感じます。中国語が全く話せなかった最初の頃、やはり一番頼りにしたのは前期からいた日本人でした。留学に来てまで日本人と関わるのは無駄だと考える人もいるかもしれませんが、私が今後の人生のほとんどを日本で過ごすことも事実です。留学先で日本人の友人を作ることも重要だと思います。

中国語習得に向けて

6/20で夜間の中国語の授業が終わりました。まだまだ未熟ではありますが、最初の頃と比べたら大分話せるようになり、4カ月間頑張ってきて良かったと思いました。先生にも私の頑張りが伝わっていたようで、最後に先生から頂いた言葉に励まされました。来学期は上のクラスに上がれるよう、夏休み中も日本で独学に励みたいと思います。日本への一時帰国に関して、賛否両論があると思いますが、輔大に来て語学は留学に行かずとも身につくというのを強く感じました。日本語学科に所属する多くの台湾人が日本語をととても流暢に話します。しかし、日本へ留学していない学生も多いです。お金を費やせば、間違いなく知識を得られますが、努力だけでも同じ結果を出せるわけです。帰国する約2カ月間、集中講義、インターンシップ、中国語の全てをしっかりとこなしたいと思います。



休日の過ごし方

台湾人の友人に「野柳」に行きたいとお願いをしたところ、入念に計画を立ててくれて、多くの留学生と一緒に野柳地質公園とその周辺の老街に連れて行ってもらいました。当日、残念ながら天気にも恵まれませんでしたでしたが、とても良い思い出ができました。また、マカオや中国からの留学生とも交流ができる貴重な機会でした。そして台湾は、卒業シーズンです。またも台湾人の友人にお願いをして、卒業式で着るキャップとガウンを貸してもらい、写真を撮りました。輔大は、学部によってガウンの色が違います。ピンク、白、青、さまざまな色があり、私は緑のものを貸してもらいました。日本では着られないものなのでとても嬉しかったです。



半期を終えて



あっという間の4カ月で、まだ私が台湾で何を身に付けたのかははっきりしません。しかし、間違いなくこの4カ月が私に大きな影響を与えています。何を得たのか、残りの4カ月をどうすべきか、日本でしっかりと考えたいと思います。台湾はとても人が温かい場所です。行きつけのお店のおばちゃんが、台湾に来た当初からすごく良くしてくれています。最初の頃は、もちろん何を言っているのか分からなくて、私は苦笑いをし、友人が話すばかりでした。しかし、この間初めて、そのおばちゃんと二人で会話ができました。台湾に来て一番嬉しい出来事でした。日本のお土産を持って、また9月に会いに行こうと思います。